

3
月



美園小だより

令和7年3月3日
さいたま市立美園小学校
第175号 児童数 1063名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

旅立ちの日に

校長 河野 秀樹



〈高橋浩美先生 (旧姓坂本) のメッセージ〉

埼玉県観光地というところを思い浮かべようか。川越？長瀨？深谷？それとも……。私は毎年秩父にドライブに行きます。見どころがたくさんあり、その都度新しい発見がある魅力的な場所です。そんな秩父で、必ず足を運ぶところがあります。秩父ミュージックパークです。100円玉をたくさん持って、「旅立ちの丘」という展望台に立ち寄るのです。そこにあるガチャガチャを回して手に入れるのが、「旅立ちの日に」の歌詞の一部が印字された絵馬です（写真）。残念ながら、今は道の駅に移動してしまいました。ガチャガチャですから、歌詞のどの一節が手に入るかは分かりません。私は6年生が小学校をしっかりと旅立ってほしいという願いを込めて、各クラスに渡し続けています。

これまでに「旅立ちの日に」を歌ったことがある方は多いと思います。私の大好きな曲です。今、まさに6年生が卒業式で歌うために、一所懸命に練習をしているところです。昨年、この曲の作曲者である高橋浩美先生（旧姓坂本）のお話を伺う機会がありました。そこで、この歌の誕生について、以下のことを教えていただきました。

「旅立ちの日に」は、今から34年前の2月に、埼玉県秩父市立影森中学校で誕生しました。当時の影森中学校は、歌を歌うことに消極的な生徒が多く、校歌でさえも生徒の半分程度しか歌わない状態だったそうです。そこで、坂本先生（ここでは旧姓で紹介します）と一緒に赴任した小嶋登校長先生は「歌声の響く学校を目指そう」と考え、教職員や生徒たちに働きかけたのでした。音楽担当の坂本先生も「歌うことが恥ずかしい」という意識を「歌うことは気持ちがいい」というポジティブなものへ変化させようと熱心に教えました。そして、次第に歌声が大きく校舎に響き渡るようになりました。一緒に着任して3年が経った小嶋校長先生の退職の年に、坂本先生は卒業する生徒のために「世界に一つだけのものを残したい」と考え、小嶋校長先生に「詩を書いてください」とお願いしました。しかし「私は英語の教師だから」と、一度は断られてしまいました。ところが次の日の朝、坂本先生の机の上に一つの詩が置いてありました。坂本先生は、それを抱きかかえるようにして音楽室へ行き、なんと15分でメロディをつけました。教職員は生徒に秘密でこの曲を練習し、3年生を送る会でこの世にデビューしたのでした。当時は「限り無い青い空に…」でしたが、現在は「限り無く青い空に…」と、実は歌詞が一部変わっているのだと、坂本先生は教えてくださいました。

坂本先生はとても明るく、大変お話が上手な方でした。『旅立ちの日に』はありがとうの歌です。その日まで自分を支えてくれた人をしっかりと胸において、思いを歌にのせてください」と、子どもたちにメッセージをくださいました。先生とお別れする際、秩父で手に入れた絵馬を差し出すと、この歌を歌うときは「ありがとうを伝えてね」と、直筆のメッセージを寄せてくださいました（写真）。皆さんが、この曲を歌ったり聞いたりした時に、今話を思い出してくださったら嬉しいです。

参考図書：卒業ソング「旅立ちの日に」の奇蹟 卒業式ソング取材班 グイヤモンド社